

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成25年9月13日
【四半期会計期間】	第61期第2四半期（自平成25年5月1日至平成25年7月31日）
【会社名】	クロスプラス株式会社
【英訳名】	CROSS PLUS INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 森 文夫
【本店の所在の場所】	名古屋市西区花の木三丁目9番13号
【電話番号】	052 - 532 - 2211（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員経営企画室長 山本 大寛
【最寄りの連絡場所】	名古屋市西区花の木三丁目9番13号
【電話番号】	052 - 532 - 2211（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員経営企画室長 山本 大寛
【縦覧に供する場所】	クロスプラス株式会社東京支店 （東京都中央区日本橋浜町三丁目3番2号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第60期 第2四半期連結 累計期間	第61期 第2四半期連結 累計期間	第60期
会計期間	自平成24年 2月1日 至平成24年 7月31日	自平成25年 2月1日 至平成25年 7月31日	自平成24年 2月1日 至平成25年 1月31日
売上高(百万円)	35,383	35,465	79,221
経常損失() (百万円)	1,709	3,033	430
四半期(当期)純損失() (百万円)	962	2,160	1,319
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,072	1,902	1,120
純資産額(百万円)	17,413	15,170	17,218
総資産額(百万円)	35,491	33,960	39,153
1株当たり四半期(当期)純損失 金額()(円)	131.48	295.22	180.30
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	49.0	44.7	44.0
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,617	2,084	220
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	655	185	769
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,072	15	911
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	4,472	4,183	6,040

回次	第60期 第2四半期連結 会計期間	第61期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 5月1日 至平成24年 7月31日	自平成25年 5月1日 至平成25年 7月31日
1株当たり四半期純損失金額 ()(円)	43.27	146.27

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権の経済政策への期待感から円安、株高が進むとともに企業業績の改善が見られるなど、景気は穏やかな回復傾向にあります。しかし当アパレル業界においては、急激な円安による海外からの輸入商品の原価上昇により、厳しい状況となりました。

このような状況の中、当社グループは、(株)ヴェント・インターナショナルの立て直しにグループをあげて取り組むとともに、強みである「マスマッションの単品競争力」、「ブランド力」、「売場提案型トータルウェアリングの企画力・提案力」を磨き、経営基盤の強化に努めてまいりました。

製造卸売グループでは、量販店はトップスからボトムの売場提案型トータル販売により、大手GMS向けが好調に推移した結果、売上は増加いたしました。専門店は大手中専門店チェーンが都市型店舗向けのトータル提案企画の拡大により増加しましたが、スタイリンク(株)の有力専門店向けODMが苦戦したことで、減収となりました。無店舗はカタログ通販向けの販売拡大により、増収となりました。以上により、製造卸売グループは、売上高は増加いたしました。前年1ドル80円から今期96円への急激な円安により仕入原価が上昇する一方、販売価格への転嫁も進まず、営業損失は悪化いたしました。

S P Aグループでは、ミセスS P Aは、百貨店市場の回復や「ジュンコ シマダ」を軸にそのノウハウを他ブランドに活用することで収益改善を進めた結果、好調に推移いたしました。一方、再建中の(株)ヴェント・インターナショナルは、経費削減は計画通り進みましたが、S C店舗向けブランドの不振により売上が減少し苦戦いたしました。以上の結果、S P Aグループは、売上高は減少し、営業損失は大きく改善するには至りませんでした。

これらの結果、連結業績は、売上高は354億65百万円(前年同期比0.2%増)、営業損益は31億29百万円の損失(前年同期は18億14百万円の営業損失)、経常損益は30億33百万円の損失(前年同期は17億9百万円の経常損失)、四半期純損益は21億60百万円の純損失(前年同期は9億62百万円の四半期純損失)となりました。

なお、当社グループは衣料品事業のみの単一セグメントのため、セグメント別の記載はしていません。

グループ別、販売チャネル別の売上高は以下のとおりです。

区分		金額(百万円)	前年同期比(%)	
製造卸売 グループ	量販店	14,271	+6.6	
	専門店	11,641	4.7	
	無店舗	3,265	+6.6	
	百貨店	372	10.3	
	その他	681	+2.9	
	製造卸売グループ合計	30,233	+1.6	
S P A グループ	ヤングS P A事業	直営店	2,287	21.3
		その他	634	4.2
	小計	2,922	18.1	
	ミセスS P A事業	直営店	1,480	1.6
		その他	908	+37.3
	小計	2,389	+10.3	
S P Aグループ合計	5,311	7.4		
グループ合計	35,545	+0.2		
消去	79	-		
合計	35,465	+0.2		

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は339億60百万円となり、前連結会計年度末に比べ51億93百万円の減少となりました。

流動資産は227億57百万円となり、前連結会計年度末に比べ49億87百万円の減少となりました。流動資産の減少の主な要因は、受取手形及び売掛金が38億50百万円、現金及び預金が18億42百万円減少したことによります。

固定資産は112億2百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億6百万円の減少となりました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末の負債は187億90百万円となり、前連結会計年度末に比べ31億44百万円の減少となりました。

流動負債は156億22百万円となり、前連結会計年度末に比べ41億65百万円の減少となりました。流動負債の減少の主な要因は支払手形及び買掛金が25億88百万円、短期借入金が11億円減少したことによります。

固定負債は31億67百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億20百万円の増加となりました。固定負債の増加の主な要因は長期借入金が11億6百万円増加したことによります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産は151億70百万円となり、前連結会計年度末に比べ20億48百万円の減少となりました。純資産の減少の主な要因は利益剰余金が23億6百万円減少したことによります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ18億56百万円減少し、41億83百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、20億84百万円(前年同期は使用した資金16億17百万円)となりました。これは、税金等調整前四半期純損失が29億29百万円(前年同期は税金等調整前四半期純損失17億71百万円)となり、売上債権の減少が35億34百万円(前年同期は32億75百万円減少)となったものの、仕入債務の減少25億98百万円(前年同期は40億5百万円減少)等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、1億85百万円(前年同期は使用した資金6億55百万円)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出が1億89百万円(前年同期は4億8百万円)となったものの、有形固定資産の売却による収入3億61百万円(前年同期は有形固定資産の売却はなし)等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、15百万円(前年同期は10億72百万円)となりました。これは、短期借入金の減少が11億円(前年同期は11億円の増加)となったものの、長期借入れによる収入14億円(前年同期は2億円)等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。また、新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等は次のとおりであります。

基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社グループの財務及び事業の内容、当社グループの独自性及び当社グループの企業価値の源泉を十分に理解し、当社が中長期的な経営を行っていくことで当社の企業価値・株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保し、向上していくことを可能とする者である必要があると考えております。

当社は、当社の支配権の移転を伴う買付提案についての判断は、最終的には株主の皆様全体の意思に基づき行われるべきものであると考えております。また、当社は、当社株式の大量買付であっても、当社の企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。

しかしながら、株式の大量買付の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、当社取締役会や株主が株式の大量買付の内容等について検討しあるいは当社取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、当社が買付者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買付者との交渉を必要とするもの等、当社の企業価値・株主共同の

利益に資さないものも少なくありません。

当社としては、このような当社の企業価値・株主共同の利益に資さない大量買付を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であり、このような者による大量買付に対しては必要かつ相当な対抗措置を採ることにより、当社の企業価値・株主共同の利益を確保する必要があると考えます。

基本方針の実現に資する特別な取組み

(a) 企業価値向上への取組み

当社は、昭和28年に櫻屋商事株式会社を設立し、婦人服の企画・製造・販売を行う総合アパレル企業として、量販店を中心に多くのお取引先を通じ業容を拡大してまいりました。平成13年にクロスプラス株式会社に社名変更し、「夢と喜びあふれるファッションを提供し、豊かな社会の創造に貢献する。」の経営理念のもと、製造卸売事業を主軸としながらSPA（製造小売）事業を加えたグループ戦略を通じ、持続的成長と経営基盤の強化に取組んでまいりました。

当社事業の特徴は、婦人服業界トップシェアの販売枚数を誇る高感度・高品質・低価格を備えた「マスマッシュの単品競争力」、独自のコンセプトを持つデザイナーズブランドやオリジナルブランドなど多彩な「ブランド力」、マスマッシュの単品競争力とブランド力を掛け合わせた「売場提案型トータルウェアリングの企画力・提案力」になります。

主力となる製造卸売事業では、量販店、無店舗向けでは業界トップの地位を確保し、専門店、百貨店など幅広い取引先と強固な信頼関係を築いております。また、SPA事業では、「ATSURO TAYAMA」、「JUNKO SHIMADA」のパリコレデザイナーズブランドによる百貨店での店舗展開や、ヤング向けブランドを渋谷109を中心とするファッションビルやショッピングモールで展開しております。さらに、マスマッシュの企画・生産力とマルチチャネルへの販売力、デザイナーズブランドのトータルウェアリングの演出力を組み合わせ、売場提案型トータル販売に取組んでおります。また、中国やアセアンの海外有力工場との取組みによる効率的な生産体制、海外検品と国内自社センターとの連携による物流ネットワークなど、グローバルなサプライチェーンを構築しております。これらは変化の激しいファッション市場動向において機動力、柔軟性を発揮できる独自の仕組み、企画・生産・販売まで一貫して運営する事業部組織のディビジョン制にも支えられ、当社の企業価値の源泉となるものであります。

今後も、当社はグループ内で製造卸売、SPAそれぞれの強みを共有し活用することで国内市場での基盤強化に努め、アジアを中心とする海外マーケットの開拓により成長を図り、企業価値・株主共同の利益の向上に取組んでまいります。

(b) コーポレート・ガバナンスの強化の取組み

当社は、前述の取組みに加えまして、コーポレート・ガバナンスの強化にも取組んでおります。経営の効率性や公正性、法令遵守を確保するためのコーポレート・ガバナンスの強化は、多様なステークホルダーの皆様と適切な関係を維持し、社会的な責任を果たすことに繋がり、企業価値・株主共同の利益の向上に資するものと考えております。

当社は、経営の意思決定と業務執行を明確化するため、営業部門の業務執行機関として執行役員制度を導入しております。営業部門には担当執行役員を配し業務執行に関わる決定及び実行指揮にあたらせる一方、管理部門の主要部門には担当取締役を配し、部門間の連携を取りつつコンプライアンスの徹底、業務の効率化に努めております。

また、現在当社の取締役8名のうち2名は社外取締役であり、監査役4名のうち2名は社外監査役であることから、独立性の高い役員により取締役の業務を監視できる体制となっております。取締役の任期は、経営陣の責任明確化のため、1年となっております。

さらに、コンプライアンス体制の強化のため、法令遵守の具体策の審議や社内の啓蒙活動を行う機関として、コンプライアンス委員会を設置しております。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成25年4月25日開催の第60回定時株主総会において、既存の買収防衛策について基本的なスキームを何ら変更せず、一部語句の修正・整理を行い、継続すること（以下、継続後の買収防衛策を「本プラン」といいます。）を株主の皆様にご承認いただきました。

本プランは、当社株券等に対する買付等が行われる場合に、当社が、当該買付等についての情報収集、検討等を行う期間を確保した上で、株主の皆様当社経営陣の計画や代替案等を提示したり、買付者等との交渉等を行っていくことにより、当社の企業価値・株主共同の利益を確保・向上させることを目的としております。

本プランは、(i)当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付その他の取得、もしくは(ii)当社が発行者である株券等について、公開買付けを行う者の株券等所有割合及びその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け、もしくはこれに類似する行為、又はこれらの提案（当社取締役会が本プランを適用しない旨別途決定したものを除き、以下、併せて「買付等」といいます。）を適用対象とし、こうした場合に上記目的を実現するために必要な手続を定めております。

当社の株券等について買付等が行われる場合、買付等の開始又は実行に先立ち、買付等を行う者（以下「買付者等」といいます。）には、本プランに定める手続を遵守する旨の誓約文言等を記載した書面及び買付等の内容の検討に必要な情報の提出を求めます。その後、買付者等から提出された情報、当社取締役会の買付者等による買付等の内容

に対する意見、その根拠資料及び代替案（もしあれば）等が、当社経営陣から独立した社外者のみから構成される独立委員会に提供され、原則として最長60日間の検討作業を経るものとします。独立委員会は、必要に応じて、独立した第三者の助言を独自に得たうえ、買付者等の買付等の内容の検討、当社取締役会による代替案の提示を行います。当社は、本プランの各手続の進捗状況やその他独立委員会又は当社取締役会が適切と考える事項について、適時に情報開示を行います。

独立委員会は、買付者等が本プランに規定する手続を遵守しなかった場合、又は買付者等の買付等の内容の検討、買付者等との協議・交渉の結果、買付者等による買付等が当社の企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付等である場合等、本プランに定める要件のいずれかに該当し、新株予約権の無償割当てを実施することが相当であると判断した場合には、当社取締役会に対して、新株予約権の無償割当てを実施することを勧告します。当社取締役会は、独立委員会の勧告を最大限尊重して速やかに新株予約権の無償割当ての実施又は不実施等を決議いたします。

（注）本プランの詳細な内容は、インターネット上の当社ウェブサイト
（アドレス <http://www.crossplus.co.jp/>）に掲載しております。

上記の各取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

(a)基本方針の実現に資する特別な取組み（上記 の取組み）について

上記 の取組みは、当社の企業価値・株主共同の利益を最大化させるための具体的方策として策定されたものであり、まさに基本方針の実現に資するものです。

(b)基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み（上記 の取組み）について

本プランは、上記 に記載のとおり、当社の企業価値・株主共同の利益を確保し、向上させることを目的とした枠組みであり、基本方針に沿うものです。また、以下の理由により当該取組みが株主共同の利益を損なうものではなく、また、当社の役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しております。

・買収防衛策に関する指針の要件を完全に充足していること

本プランは、経済産業省及び法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保又は向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性の原則）を完全に充足しています。また、経済産業省の企業価値研究会が平成20年6月30日に発表した「近時の諸環境の変化を踏まえた買収防衛策の在り方」を踏まえた内容となっております。

・企業価値・株主共同の利益の確保・向上の目的をもって継続されるものであること

本プランは、当社株式に対する大量買付がなされた際に、当該大量買付に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは当社取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保し、株主の皆様のために買付者と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値・株主共同の利益の確保・向上を目的とするものです。

・株主意思を重視するものであること

本プランは、平成25年4月25日に開催された当社第60回定時株主総会において株主の皆様のご承認をいただき継続されたものであり、株主の皆様のご意向が反映されております。

また、本プランの発動の是非について、株主意思確認総会において株主の皆様のご意思を確認するものとされております。さらに、その有効期間の満了前であっても、当社株主総会において本プランを撤回する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されることになり、株主の皆様のご意向が反映されることとなっております。

・独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

当社は、当社取締役会の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために本プランの発動等の運用に際しての実質的な判断を客観的に行う機関として、独立委員会を設置しております。当社株式に対して買付等がなされた場合には、独立委員会が、独立委員会規則に従い、当該買付等が当社の企業価値・株主共同の利益を毀損するか否か等の実質的な判断を行い、当社取締役会はその判断を最大限尊重して本新株予約権の無償割当ての実施又は不実施等の決議を行うこととします。

このように、独立委員会によって、当社取締役会が恣意的に本プランを発動する等の運用を行うことのないよう、厳しく監視するとともに、同委員会の判断の概要については株主の皆様にご情報開示をすることとされており、当社の企業価値・株主共同の利益に適うように本プランの透明な運営が行われる仕組みが確保されています。

・合理的な客観的発動要件の設定

本プランは、予め定められた合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ、本新株予約権の無償割当てが実施されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みが確保されています。

・第三者専門家の意見の取得

買付者等が出現すると、独立委員会は、当社の費用で、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を得ることができることとされています。これにより、独立委員会による判断の公正性・客観性がより強く担保される仕組みが確保されています。

・当社取締役の任期は1年であること

当社取締役の任期は1年とされており、当社株主総会で選任された取締役で構成される当社取締役会により本プランを廃止することができるものとされており、従って、毎年の当社取締役の選任を通じて、本プランにつき、株主の皆様のご意向を反映させることが可能となります。

・デッドハンド型買収防衛策やスローハンド型買収防衛策でないこと

本プランは、当社取締役会により廃止することができるものとされており、当社の株券等を大量に買い付けた者が自己の指名する取締役を株主総会で選任し、かかる取締役で構成される取締役会により本プランを廃止することが可能です。従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。

また、当社は、取締役の期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

（5）研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	31,600,000
計	31,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年7月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年9月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	7,718,800	7,718,800	東京証券取引所市場第二 部及び名古屋証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株
計	7,718,800	7,718,800	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年5月1日～ 平成25年7月31日	-	7,718,800	-	1,944	-	2,007

(6) 【大株主の状況】

平成25年7月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
辻村 隆幸	名古屋市昭和区	593	7.69
クロスプラス社員持株会	名古屋市西区花の木3丁目9番13号	432	5.59
田村駒株式会社	大阪市中央区安土町3丁目3番9号	238	3.08
株式会社ヤギ	大阪市中央区久太郎町2丁目2番8号	218	2.83
森 文夫	名古屋市守山区	217	2.82
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	206	2.66
有限会社シーピーモア	名古屋市守山区更屋敷4番5号	191	2.47
辻村 幸子	名古屋市守山区	178	2.31
C P共栄会	名古屋市西区花の木3丁目9番13号	174	2.25
森 起久子	名古屋市守山区	171	2.21
計	-	2,621	33.96

(注) 当社は自己株式400千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合5.19%)を保有しておりますが、当該自己株式には議決権がないため、上記の「大株主の状況」から除外しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 400,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 7,313,800	73,138	-
単元未満株式	普通株式 4,100	-	-
発行済株式総数	7,718,800	-	-
総株主の議決権	-	73,138	-

【自己株式等】

平成25年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株数の 割合(%)
クロスプラス株式会社	名古屋市西区花の木三丁目 9番13号	400,900	-	400,900	5.19
計	-	400,900	-	400,900	5.19

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成25年5月1日から平成25年7月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年2月1日から平成25年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,311	4,469
受取手形及び売掛金	15,356	11,506
電子記録債権	883	1,208
商品	4,314	3,966
貯蔵品	34	20
その他	850	1,593
貸倒引当金	7	6
流動資産合計	27,744	22,757
固定資産		
有形固定資産	5,977	5,748
無形固定資産	326	185
投資その他の資産		
投資有価証券	3,374	3,840
その他	² 1,730	² 1,428
投資その他の資産合計	5,105	5,268
固定資産合計	11,408	11,202
資産合計	39,153	33,960
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,064	11,475
短期借入金	³ 3,200	³ 2,100
1年内返済予定の長期借入金	227	384
未払法人税等	47	9
賞与引当金	98	131
返品調整引当金	100	38
ポイント引当金	33	31
事業整理損失引当金	-	12
その他	2,016	1,439
流動負債合計	19,787	15,622
固定負債		
長期借入金	340	1,446
退職給付引当金	1,134	1,060
役員退職慰労引当金	382	393
その他	288	266
固定負債合計	2,146	3,167
負債合計	21,934	18,790

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,944	1,944
資本剰余金	2,007	2,007
利益剰余金	13,192	10,885
自己株式	532	532
株主資本合計	16,612	14,305
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	548	824
繰延ヘッジ損益	77	31
為替換算調整勘定	19	8
その他の包括利益累計額合計	606	864
純資産合計	17,218	15,170
負債純資産合計	39,153	33,960

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】

【 四半期連結損益計算書 】

【 第 2 四半期連結累計期間 】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成24年 7 月31日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 2 月 1 日 至 平成25年 7 月31日)
売上高	35,383	35,465
売上原価	27,112	29,504
売上総利益	8,270	5,961
返品調整引当金戻入額	109	100
返品調整引当金繰入額	74	38
差引売上総利益	8,305	6,023
販売費及び一般管理費	10,119	9,152
営業損失 ()	1,814	3,129
営業外収益		
受取利息	6	6
受取配当金	51	48
受取家賃	12	35
その他	68	65
営業外収益合計	138	156
営業外費用		
支払利息	8	10
賃貸収入原価	10	30
固定資産除却損	-	15
その他	13	3
営業外費用合計	32	60
経常損失 ()	1,709	3,033
特別利益		
固定資産売却益	-	185
投資有価証券売却益	0	-
特別利益合計	0	185
特別損失		
固定資産除却損	17	-
減損損失	20	32
事業整理損失引当金繰入額	-	12
事業整理損	-	33
その他	25	3
特別損失合計	62	81
税金等調整前四半期純損失 ()	1,771	2,929
法人税、住民税及び事業税	47	13
法人税等調整額	728	782
法人税等合計	681	769
少数株主損益調整前四半期純損失 ()	1,090	2,160
少数株主損失 ()	127	-
四半期純損失 ()	962	2,160

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	1,090	2,160
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	40	275
繰延ヘッジ損益	31	45
為替換算調整勘定	8	28
その他の包括利益合計	17	258
四半期包括利益	1,072	1,902
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	944	1,902
少数株主に係る四半期包括利益	127	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	1,771	2,929
減価償却費	353	325
減損損失	20	32
受取利息及び受取配当金	57	55
支払利息	8	10
固定資産売却損益(は益)	-	185
売上債権の増減額(は増加)	3,275	3,534
たな卸資産の増減額(は増加)	836	374
仕入債務の増減額(は減少)	4,005	2,598
その他	296	596
小計	1,636	2,087
利息及び配当金の受取額	53	51
利息の支払額	9	11
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	14	32
その他	11	4
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,617	2,084
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	408	189
有形固定資産の売却による収入	-	361
差入保証金の回収による収入	8	170
その他	255	157
投資活動によるキャッシュ・フロー	655	185
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,100	1,100
長期借入れによる収入	200	1,400
長期借入金の返済による支出	80	136
配当金の支払額	146	146
その他	1	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,072	15
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	26
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,193	1,856
現金及び現金同等物の期首残高	5,666	6,040
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,472	4,183

【追加情報】

(事業整理損失引当金)

一部不採算事業からの撤退に伴う損失に備えるため、当第2四半期連結会計期間末における損失見込額12百万円を計上しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

取引会社の金融機関に対する債務に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年7月31日)
AISHIN LAO(HK)CO.LIMITED	85百万円	96百万円

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年7月31日)
投資その他の資産(その他)	0百万円	0百万円

3 当座貸越契約

当社及び連結子会社(株式会社ヴェント・インターナショナル、スタイリンク株式会社)においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約を締結しております。当座貸越契約に係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年7月31日)
当座貸越極度額	6,750百万円	5,650百万円
借入実行残高	3,200	2,100
差引額	3,550	3,550

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)
給料手当	2,513百万円	2,340百万円
賞与引当金繰入額	129	128
退職給付費用	170	163
役員退職慰労引当金繰入額	17	11
ポイント引当金繰入額	21	18

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)
現金及び預金	4,745百万円	4,469百万円
社内預金の保全に供している預金	272	286
現金及び現金同等物	4,472	4,183

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年2月1日至平成24年7月31日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年3月13日 取締役会	普通株式	146百万円	20円00銭	平成24年1月31日	平成24年4月5日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年9月11日 取締役会	普通株式	146百万円	20円00銭	平成24年7月31日	平成24年10月16日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成25年2月1日至平成25年7月31日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年3月14日 取締役会	普通株式	146百万円	20円00銭	平成25年1月31日	平成25年4月5日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年9月12日 取締役会	普通株式	146百万円	20円00銭	平成25年7月31日	平成25年10月16日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成24年2月1日至平成24年7月31日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成25年2月1日至平成25年7月31日)

当社グループは、衣料品事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)
1株当たり四半期純損失金額()	131円48銭	295円22銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(百万円)	962	2,160
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額()(百万円)	962	2,160
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,317	7,317

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(剰余金の配当)

平成25年9月12日開催の取締役会において、剰余金の配当を行うことを次のとおり決議いたしました。

配当金の総額	146百万円
1株当たり配当金額	20円00銭
基準日	平成25年7月31日
効力発生日	平成25年10月16日

(注)平成25年7月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年9月12日

クロスプラス株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 水野 信勝 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 瀧沢 宏光 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているクロスプラス株式会社の平成25年2月1日から平成26年1月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年5月1日から平成25年7月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年2月1日から平成25年7月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、クロスプラス株式会社及び連結子会社の平成25年7月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。